

戸森の線刻画

戸森の線刻画と呼ばれるこれらの線刻画は、島の五か所で発見された類似の画の中で最も詳細に描かれています。類似の作品は奄美群島の他の島では見つかっていないため、戸森の線刻画は徳之島特有のものであります。

これらの線刻画の正確な年代、目的、意味はよく分かっていません。これらの線刻画は江戸時代(1603-1867)初期に描かれたものと考えられており、1895 年に書かれた徳之島についての書籍に記述があります。三つの岩に描かれた画には、帆船と矢の絵が度々現れます。一つ目から三つ目の岩にかけて、線刻画は次第に簡略化し、また線は細くなっています。

岩の二つは 1923 年に地元の人々によって発見されました。一つ目は深い線で刻まれており、9 艘の船と 48 本の矢が描かれています。描かれている船の帆の様式は江戸時代に使われていたものです。一説には、これらの線刻画は地元の人によって、珍しい場所から船が着いたなど、その日の重大な出来事を記録するために彫られたということです。

二つ目の岩には 10 艘の船と 9 本の矢が描かれており、その中には将軍の遊覧船である屋形船のように見えるものもあります。

三つ目の岩は、2012 年の現地調査の最中に発見されました。この岩には、異なる時期に彫られた可能性のある 6 艘の船と 8 本の矢が描かれています。この岩にだけ刻まれている罫線のような模様の意味もまだ分かっていません。

これらの線刻画は 2017 年に鹿児島県の文化財に指定されました。